

「無料化を新基準に反映して」と意見書提出 通学援助費・スクールバス問題で吉川区地域協議会

吉川区地域協議会が24日開催され、通学援助費・スクールバス等の新基準策定に関する意見書提出を正式に決めました。

同地域協議会はこれまで、吉川区にとって通学援助費・スクールバス等の新基準策定問題は重要問題だとの考えから自主的審議事項として協議を重ねてきました。この間、吉川小・中学校PTA役員や他区地域協議会幹部とも意見交換会を実施してきました。

意見書では、「学校の統廃合によるそれぞれの通学事情を考慮いただき、これまで実施してきた支援を継続した『無料化』を新基準に反映されますよう」と求めています。

こうした意見書をあげることにした理由として同地域協議会は、①「吉川区の小中学校を統廃合した経緯では、通学援助が前提であり統廃合によって教育行政経費の圧縮(学校の集約化による経費削減)に協力してき



もうすぐ実りの秋です。25日、下町にて撮影。

た」こと、②「市全体を見たとき、教育環境は様々であり一基準に収めようとすると環境もまた同じでなければ真の統一基準と

成り得」ず、「過疎化、高齢化さらに少子化が進んでおり、次世代を担う子供に等しく義務教育を受ける機会を提供することが大切である」こと、③「経済危機が地方にも影を落とし、派遣切りや大幅な人員削減などで市民生活に大きな影響を及ぼしている現状」にあつて「教育にかかる経費負担が増すことは望ましくない」ことの3つをあげています。

この意見書は25日、木浦市長に提出されました。地域協議会が通学援助費・スクールバス等の新基準策定に関する意見書を市長に提出したのは大潟区に続いて二番目です。

新型インフルエンザに備え、休日・夜間診療所の体制強化

9月議会が31日からはじまります。今議会では20年度の各会計決算審査を行うほか、今年度の一般会計補正予算などを審議します。会期は9月25日まで。

このうち、一般会計補正予算については、小学校の耐震補強工事をはじめとする経済対策に係る経費を補正するほか、障害福祉サービスの報酬改定に伴う補正、新型インフルエンザの第2波に備え、休日・夜間診療所の診療体制を強化するため、10月以降の休日に医師等を増員する経費などを計上しました。

主な審議日程をお知らせします。31日と1日は総括質疑。9月2、3日が厚生常任委員会。4日と7日が建設企業常任委員会。8、9日が文教経済常任委員会。10、11日が総務常任委員会。15日から18日、及び24日が一般質

問。最終日の25日は議案の採決。会議の開始時間は午前10時です。



【ガガイモ】つる性の雑草。7～8月、淡紫色のかわいい花を咲かせます。先日掲載したヘクソカズラと似ていますが、こちらには強い臭いはありません。

下川谷にも冬期保安要員配置へ

上越市はこのほど冬期保安要員を上川谷、中ノ俣・上綱子に加えて下川谷にも配置することを決め、9月議会に関係予算を計上した一般会計補正予算を提出しました。

今回の決定は、新潟県が「特定地域の自立・安全を支援する事業補助金交付要綱」を改正し、冬期保安要員の配置対象地域の要件や補助限度額を変更したことにもなうものですが、報酬額についてはこれまで通りとすることとしています。

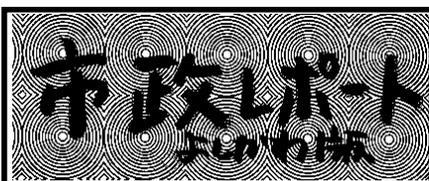
下川谷に配置する保安要員は2名。補正予算が成立すれば、今年度から実施となります。

シリーズ 上越市内の橋

第7回 陀羅尼橋

陀羅尼橋と書いて「だらにばし」と読みます。儀明川にかかる橋の一つで、高田の幸町と北本町2丁目を結んでいます。長さは約13メートル。竣工は1974年(昭和49年)3月。

「陀羅尼」とは、辞書をひくと、「教への真理を記憶させる力、神通力を与える力があるとされる呪文」とあります。密教関係の人が呪文でも唱えながら渡ったのでしょうか。めずらしい名前の橋です。



NO 1412
2009.8.30

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一
Tel 548-3628 (有線) 4867
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hose1.jp/

春よ来い 第一〇七回 最後の手紙

長雨もようやくおさまり、お盆を迎えました。わが家や近くの親戚だけでも、春からこれまでに四人が亡くなりました。どの家にとつても今年は初めて迎えたお盆です。お参りに行ったり、来ていただいたりしましたが、いつもよりも先祖を近くに感じ、遠くからつながった命のことを考えるお盆となりました。

長年にわたって会社員として働き、退職後もいろんな仕事をまじめにコツコツとやってきたKさん。犬と散歩をしている時でも、こちらから手をあげると丁寧な頭を下げる人でした。このKさんの三十五日法要と納骨がお盆の最中に行われました。

Kさんの家でお寺さんからお経を読んでもらい、その後、法話を聴きました。正直言いますと、暑くて、最初はぼんやりと聞いていたのですが、お寺さんが身に付けておられた袈裟(けさ)についての話あたりから目がしつかりと開くようになりまして。この布は縦と横の糸が織られてきたもの。縦糸が横糸と一緒に織られるおかげで布は強くなって、長持ちしている。人間も同じ……。祖先からの縦のつながりにたいする感謝の心とともに、一緒に生きていく人たちとの横のつながりの大切さなどを教えていただきました。

法話を聴きながら、私は一枚の写真を思い浮かべていました。Kさんが若かりし頃、茶の間で撮った集合写真です。おそらく五〇年ほど前のものでしょう。写真にはKさんのキョウダイと母親、それに「イワサのばあちゃん」など当時の親戚の人が何人か写っていました。飯台を囲んで、みんな和やかな表情をしています。そのなかに、私の祖父・音治郎も着物姿で写っていました。

じつは最近まで、この写真に写っていたのは音治郎ではなくKさんの父親だと思っていました。Kさんの父親は私の祖父の弟です。不思議なもので、音治郎だと分かったことで、この写真がぐんと身近に感じられました。飯台の上には銚子が3本、大皿、小皿に入ったオカズが所狭しと並んでいます。Kさんの父親の亡き後、久しぶりに親類縁者が集まって楽しいひと時を過ごした時の一コマだったのかも知れません。どうあれ、私の父親の父親、そのまた父親までさかのぼると、Kさんと同じ命の源流にたどり着くことを改めて意識しました。

さて、Kさんの法要が終わってH家の墓へ行った時のことです。お昼ちよつと前の時間帯。墓のある小高い広場には大きな桜や杉の木などが枝を広げて立っています。北方向の土手から風が這い上がり、そのなかでアブラゼミやツクツクボウシの賑やかな鳴き声が聞こえています。墓前で短いお経があって、息子さんなどが墓の中へ骨を納めました。そして、いよいよ墓石をずらして骨の入れ口を閉じようという時、亡くなったKさんのお連れ合いが「これ、入れなきや」と言っつてバッグから一通の封書を取り出しました。

「読んであげたらいいですよ」とお坊さんに言われ、お連れ合いは手紙を広げ、読んでくださいました。「おじいちゃん、病気とのたたかいたいへんだったね。(中略)ぼくはHという名前を未来につなぎます。安心して眠ってください」手紙は、お孫さんからKさんに寄せられたものだったのです。

納骨に参加できなかったお孫さんのおじいちゃんに出した最後の手紙。直前にお寺さんから、命をつなぐことをテーマにした法話をお聴きしたばかりです。親から子へ、子から孫へと伝わっていく命を感じ、胸が熱くなりました。

楽しい交流の場となりました。

今回の結い祭ではとてもうれしい報告がありました。数年前に法政大学の学生として川谷地区にやってきて、大学を卒業してもずっと運動会やサイの神行事などに参加してくれた小林朋生さんと一恵さんが今年の5月に結婚したというのです。川谷地区との交流のなかで愛を育み、実らせたことから、きょうの結い祭では二人の結婚式の様子がスライドで紹介されました。それだけではありません。みんなの前で、大きなお盆に山盛りの赤飯をしゃもじカット(ケーキカットではなく)して、参加者にふるまわれました。さらに、祭りの終わりには結婚記念のタオルも配られました。朋生さん、一恵さん、良かったね。



結い祭の最後は記念撮影でした。みんなが同じ色のシャツとズボンを着用してれば、「結」という文字に見えます。

川谷地区運動会、今年も楽しく 法政大学結い祭では結婚報告も

22日午後から恒例の川谷地区運動会、法政大学結い(ゆい)祭りが行われました。曇り空で暑くなく、ちょうど良い天気です。旧川谷小学校グラウンドには地元の住民、法政大学の学生とOBなどが集まり、すっかり定着したボードレース、ビン釣り、玉入れ、輪投げ、早くいっぱいレースなどを楽しみました。

初めて参加した人たちが「どんな競技だろう」と関心を寄せる種目は、今年もビン釣り競争(写真)でした。この日のビン釣り競争では山賀さんや松浦さんなど地元の参加者が苦戦、初参加組が健闘しました。おもしろいものですね。来賓参加とはいえ、私も事実上の「補欠選手」です。石谷・名木山チーム、岩野・川谷チームのメンバーが足りない時にはすぐ声がかかります。今回は4種目に参加しました。

運動会の反省会、そして法政大学結い祭はいつもと同じく

